

いつも「ワクワク」を胸に

1. 新規課題レス

右掲は、サミュエル・ウルマンの「青春」という有名な詩から公式化した物で「百歳現役」を目指す私にとって支えになる物です。この「若さ」=「信念」x「自信」x「希望」の持つ意味を最近つくづく実感するようになりました。

それは「希望」という事です。若い時から毎年12月になると「回顧と反省」と題して、その年に実施した事と積み残した事を列挙し、さらに、新規課題を書き出すという作業をして来ましたが、今年の「回顧と反省」を洗い出してみるとナント新規課題が見つからないという事態になったのです。これは、恐ろしい事で、裏返すと「希望」がないのも繋がるのです。幾ら「信念」や「自信」があっても「希望」がゼロなら公式的には「若さ」がゼロになってしまうので本当に恐ろしい事です。

「なぜ、新規課題がないのか」と自問してみると満69才になり少し体力的な衰えを自覚始めた事や母(94才)の介護、そして、三男が実力を付けて来た事などがパッと思い浮かびます。これらは、必然的な事であり、ある意味「幸せ」な状況なのです。そして、「古希」と言って老人気分に入り込んでいたのが大きな原因だと気づいたのです。確かに、4人の孫の成長を楽しみしていますし、一緒に住んでいる三男が独立できる環境が整いつつあるので頼もしく思っているなど恵まれた状況なのです。こんな訳で「ゆで蛙」の状況になっているのです。

青 春 サミュエル・ウルマン

青春とは人生のある期間を言うのではなく心の様相を言うのだ。保れた創造力、逞しき意志、安んずる情熱、怯懦を却ける勇猛心、安んずる喜びを捨てての冒險心、こう言う様相を青春と言うのだ。年を重ねただけで人は老いない。希望を失ふ時に初めて老いがくる。歲月は皮膚のしわを増すが情熱を失う時に老いはしむ。言語や、思想、希望、行動、失望、こう言うものを捨て去る年月の久くを老いさせ、精気ある魂を若くしに燃せしめてしむ。年は七十であろうと十六であろうと、その胸中に燃き伸るものは何か。白く「無類の愛の聖心」空にひろめく星、その輝きにも似たる事物や思想の対する歎息、事に絶する剛毅な雄健、小光の如く閃めて止まぬ探求心、人生への歡喜と勇気。

人は信念と共に若く	疑惑と共に老ゆる
人は自信と共に若く	恐怖と共に老ゆる
希望ある限り若く	失望と共に老い朽ちる

大地より、神より、人より、愛と喜び、勇氣と仕度、信力と靈感を受ける限り人の若さは失われぬ。これらの靈感が絶え、聖心の白雲が人の心の奥までも曇りつくし、真理の光がこれを照くとならずにすればこの時にこそ人は全く老いて神の御れみをうろたはるくなる。

人は信念と共に若く	疑惑と共に老ゆる
人は自信と共に若く	恐怖と共に老ゆる
希望ある限り若く	失望と共に老い朽ちる

「若さ」=「信念」x「自信」x「希望」

2. 現状に満足

さて、「希望」(新規課題)を如何にして取り戻すかという事が喫緊の課題です。私自身は持続性のある事にチャレンジして来ましたが、例えば、家と事務所は直線で500m程ですが、少し大回りして20分程歩く事で1日6kmのウォーキングをする、また、途中にあるジャンカラで昼休みを兼ねて30分110円でコーヒーを頂きながら6曲歌う事や自炊で三男の分を含めて料理を作るなど身近な事を継続しています。カラオケでは三波春夫さん一点張りから福田こうへいや北川裕二と言った方の歌もレパートリーに入り、最近では杉良太郎さんの「ぼけたらあかん長生きしなはれ」と言った物にもチャレンジして機械採点で90点位になっています。これらの習慣が身につけているので「健康寿命」という点でも、ある程度対策になっていると思っています。

しかし、これらは習慣化しているので「希望」(新規課題)ではないのです。サミュエル・ウルマンの詩では「希望がある限り若く、失望と共に老い朽ちる」とありますが、失望ではないが惰性になっている自分があり、このまま老い朽ちるのかと危惧する訳です。京セラの稲盛さんは「成果」=「考え方」x「情熱」x「能力」という考えで、「能力」も「情熱」もゼロ以上なのだが、「考え方」はプラスからマイナスまで幅があるので心の持ちようが大切だとおっしゃっています。「心の持ちよう」つまり「スイッチの入れ方」が大切であり、新しい事に興味を持ち、出来る事から一つずつ進める事が重要なのです。まず、小さな事でも良いから「できる」という実感を味わう事がポイントなのですが、残念な事に、その肝腎の「新しい事」が現れてワクワクする機会が少なくなっているのです。

その現象の一つに「まあ、ええか」という気分です。新しい物に接してもすぐに飛びつきたくなるものは少なく、多くは後回しにしても支障がないものばかりなので自然と「まあ、ええか」という事になり手を付けずにいるのです。これが「知識」にも及ぶと大変ですが、今のところ新聞を始めとして色々な媒体から情報を得て新しい知識を得ているので大丈夫かと思えます。

3. 「つかの間の夢を見る自由」

10月26日の読売新聞「編集手帳」に歌人、稲村弘の「によつ記」という本が紹介されていて、丁度、欠如している「つかの間の夢を見る自由」を書いていました。例えば、若い時なら新車が発表されるとカッコよくドライブしている自分を夢見たり、コンピュータも新モデルが出ると新しい機能を妄想して稟議を書いて購入して頂いていました。もっと身近なところではゴルフですが、憧れのジャック・ニクラウスが愛用するモデルのウッド、アイアン、ウェッジ、パター、バッグまで揃えて悦に入っていた頃がありました。

ところが、残念なことにクルマは運転免許を返上する年頃に近づき、コンピュータも仕事でパソコンを使用してワード・エクセル・パワーポイントを使っていますが、それ以上の事への挑戦はありません。ゴルフに至ってはメンバーでありながら10年以上コースに顔を出していない状況で、その上、大動脈瘤が発見されたので血压管理も課題なので更に行けなくなっています。

満69才になっていますが実際に「妄想」する事は可能です。妻に先立たれて独身なので、ご近所の独身女性と交流する機会が増えており、実際に、お姉さまですがアプローチされてスナックなどにもご一緒します。「つかの間の夢を見る自由」を楽しむ事がありますが、現実的にもう一步踏み出す事はありません。体力的な衰えを実感し始めていますが、お蔭様で見た目は健康であり、自活も出来ているので不便はないのです。

4. 「妄想力」を働かす

このように、日常の健康習慣(仕事、カラオケ、ウォーキング、自炊)が出来ているので「3つの‘不’(不便・不足・不満)」を実感しないのです。この充足した生活をベースにして、その上に妄想力を働かせて「ワクワク」することを見出す必要があるのです。まず、「不便」という点では、環境的に恵まれた場所に住んでいますので、健康ならば、徒歩圏内でいろんな物が調達できます。次に、「不足」ですが、家も事務所もクルマも全自動洗濯乾燥機なども揃っているの、物としての不足は余り感じません。最後の「不満」は、少しずつ体力の衰えを感じる事が大きいです。

このように、客観的に見ると「3つの‘不’」はそれなりに充足されているので、物による「ワクワク」は起こり難いのです。つまり、精神的な領域での「ワクワク」を見出す必要があるのです。例えば、このAMIニュースは毎週発信して622号になっていますが、1000号まで378週なので約7年3ヵ月の時間がかかり2025年3月なので年齢76は才8ヵ月になっています。丁度、「喜寿」の年なので、まだ、元気でおれそうに思います。この1000号を記念して何かを行うのは「面白い」と気付きました。週1千円x378週で37万8千円の金額になるので、3千円なら百万円原資が貯まるので結構な祝い事が可能だと「ワクワク」して来ています。

その為には、自分も会社も元気でなければなりません。お客様に恵まれています。これから蓄積した経験を活かす事ができる新しいお客様とも出会いたいと思っています。そのキーとなるのが三男が始めている業務改善システムだと考えています。今後、ますますITやICTが必要になる時代であり、「鄙の論理」ではないですが身近なお客様で大手の動きに追随できるITやICTを提供する事で貢献して、それを通じて「困っているお客様」と出会って、私の経験を活かす機会も出て来ると期待しています。

また、少し考えましたが、前向きな事では「本」を書くことも一つかと思っています。昨年、10年前にWeb出版した「ちょっとの差」を製本しましたが、今度は、別のジャンルで出版にあチャレンジする事が「力相応」に出来る事かと思っています。何を書くかとワクワクしたいと思って構想を練っています。ホンマに何事も「考え方」次第と実感しています。

【AMIニュースのバックログは <http://www.web-ami.com/siryu.html> にあります！】